

24:24 数日後、フェリクスはユダヤ人である妻ドルシラとともにやって来て、パウロを呼び出し、キリスト・イエスに対する信仰について話を聞いた。

24:25 しかし、パウロが正義と節制と来たるべきさばきについて論じたので、フェリクスは恐ろしくなり、「今は帰ってよい。折を見て、また呼ぶことにする」と言った。

24:26 また同時に、フェリクスにはパウロから金をもらいたい下心があったので、何度もパウロを呼び出して語り合った。

24:27 二年が過ぎ、ポルキウス・フェストゥスがフェリクスの後任になった。しかし、フェリクスはユダヤ人たちの機嫌を取ろうとして、パウロを監禁したままにしておいた。

25:1 フェストゥスは、属州に到着すると、三日後にカイサリアからエルサレムに上った。25:2 すると、祭司長たちとユダヤ人のおもだった者たちが、パウロのことを告訴した。25:3 そして、パウロの件で自分たちに好意を示し、彼をエルサレムに呼び寄せていただきたいと、フェストゥスに懇願した。待ち伏せして、途中でパウロを殺そうとしていたのである。

25:4 しかしフェストゥスは、パウロはカイサリアに監禁されているし、自分も間もなく出発する予定であると答え、

25:5 「その男に何か問題があるなら、おまえたちの中の有力者たちが私と一緒に下って行って、彼を訴えればよい」と言った。

25:6 フェストゥスは、彼らのところから八日か十日ほど滞在しただけで、カイサリアに下り、翌日、裁判の席に着いて、パウロの出廷を命

じた。

25:7 パウロが現れると、エルサレムから下って来たユダヤ人たちは彼を取り囲んで立ち、多くの重い罪状を申し立てた。しかし、それを立証することはできなかった。

25:8 パウロは、「私は、ユダヤ人の律法に対しても、宮に対しても、カエサルに対しても、何の罪も犯してはいません」と弁明した。

25:9 ところが、ユダヤ人たちの機嫌を取ろうとしたフェストゥスは、パウロに向かって、「おまえはエルサレムに上り、そこでこれらの件について、私の前で裁判を受けることを望むか」と尋ねた。

25:10 すると、パウロは言った。「私はカエサルの法廷に立っているのですから、ここで裁判を受けるのが当然です。閣下もよくご存じのとおり、私はユダヤ人たちに何も悪いことをしていません。

25:11 もし私が悪いことをし、死に値する何かをしたのなら、私は死を免れようとは思いません。しかし、この人たちが訴えていることに何の根拠もないとすれば、だれも私を彼らに引き渡すことはできません。私はカエサルに上訴します。」

25:12 そこで、フェストゥスは陪席の者たちと協議したうえで、こう答えた。「おまえはカエサルに上訴したのだから、カエサルのもとに行くことになる。」

下心がありながらも、真理については半信半疑で恐れを抱くというのは、現代人の特徴でもあるでしょう。それでありながら、結局は物欲を選択してしまう人も多いのではないのでしょうか。

パウロはそのようなペリクス、フェストによっ

て人生が翻弄されるのですが、神様の助けは常にありました。パウロ殺害の陰謀は失敗に終わったのです。

主のために何かを選択すると必ずサタンの妨害があるでしょう。気が付かないものもあるかも知れませんが…。それらを主が砕いて、私たちを守ってください。弱い者の小さな働きを助けてくださったという経験は何にも優るのです。パウロをモデルとして何かを選択してみましょう。

パウロを訴えても何の罪も見出させませんでした。神の反対者が訴えを起こしても、クリスチャンが正しい生活をしているなら、本当の真理によって立つことができます。もしもパウロが生活に問題があったなら、ただクリスチャンのだらしなさが指摘され、神の栄光が地にまみれて終わっていたことでしょう。

主のために働く場合は、反対者に訴える口実を与えないようにすることも、必要です。

結局パウロはカイザルに上告しましたが、それによって彼がローマの宣教を計画していることがわかります。つかまって自由がなくなった状態ですが、彼は神様に祈りすばらしい知恵をいただいたのでしょうか。

主のために生きる者には聖霊が働いてくださるので、このように逆転の知恵が与えられるのです。今与えられている事柄をも、主のための目的にシフトを据え変えて、主にさげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世において何を実践しますか？